

芸術文化分野の手話通訳研修プログラム

1 研修プログラム概要

美術館や劇場等で手話通訳を担う人材の活躍により、文化施設や文化事業での鑑賞体験や参画の場面における情報アクセシビリティを保障し、聴覚障害者が芸術文化にアクセスしやすい環境を整えるために、6月から8月までの期間、芸術文化分野で言語通訳としての手話通訳を担える通訳技術の習得を目的とした実践的なトレーニングを実施します。

2 研修プログラム対象者

以下の2つの条件に当てはまる方を対象とし、選考（書類・面接）により受講生を決定します。

- ・ 芸術文化分野の手話通訳に経験や興味・関心を有する者
- ・ 手話通訳士又は手話通訳士と同程度の能力を有する者

3 定員

15名程度

4 研修内容

研修は、講義、グループワーク、ワークショップ方式のいずれかで実施

① 手話通訳技術の向上

手話通訳論、手話通訳の事前準備、聞取り／読取り通訳技術、芸術文化領域の知識の強化

② 文化芸術分野で活躍中の手話話者が通訳者に求めることについての理解促進

手話話者の文化の理解、協働する際の当事者性の担保への理解

5 研修スケジュール

研修は全8回、10時00分から15時15分まで（休憩含）

6月21日（土曜）	6月22日（日曜）	7月13日（日曜）	7月26日（土曜）
7月27日（日曜）	8月9日（土曜）	8月10日（日曜）	8月23日（土曜）

※ 今後の状況により予定が変更となる場合があります。

6 受講料

無料

※ただし、テキスト代・視察先の入場料等が発生する場合は実費負担（5,000円程度）

7 応募・受付期間

令和7年4月24日（木曜）14時00分から

令和7年5月18日（日曜）18時00分まで

応募はウェブサイトで受け付けます。応募の詳細は以下のウェブサイトをご覧ください。

<https://creativewell.rekibun.or.jp/>



■ 令和 6 年度研修プログラムの実施状況

日程・受講者数： 全 8 回(7/27～11/17)・15 名

講師(登壇順)： 飯泉菜穂子氏、廣川麻子氏、石川絵理氏、那須映里氏、小林信恵氏、
数見陽子氏、五十嵐由美子氏、河合祐三子氏、今井ミカ氏、江副悟史氏、
牧原依里氏、菅野奈津美氏

主な研修内容： 芸術文化領域の手話通訳を行う上での留意点
美術館や劇場等で手話通訳を行うにあたっての事前準備について
芸術文化領域の手話通訳表現の実践
場面別手話通訳(美術館や劇場などのガイドツアーやシンポジウム等)

受講生の感想： (受講生アンケートの一部を抜粋、要約)

- 芸術文化分野でご活躍されている著名な講師の方に直接指導いただける経験は他にないと思う
- (講師から)仕事に対する向き合い方、現場で手話通訳に求められることなど丁寧にお話しいただき、各分野で必要とされる手話通訳を自分なりに理解することができた
- 手話通訳技術については、この研修で学べたことで、自分が今まで学んできたことが狭い範囲でしか通用しないことに気付くことができた
- この研修で地域では学べなかった資料の読み方、打ち合わせの仕方、自己検証など学ぶことができた。今まで手話の読み取りに苦手意識があったが、読み取りの検証ポイントを教えていただき、これらを意識して練習できるようになった
- 今回学んだことを普段の地域の派遣でも活かし、さらに芸術文化分野で活躍できる通訳になりたい



■ 「入門編」動画

令和 6 年度「芸術文化分野の手話通訳研修プログラム」の全 8 回の内容の一部を編集し、入門編動画として公開しています。これから芸術文化分野での活躍をめざす方や技術を磨きたい方のために、いま、そしてこれから、芸術文化分野の手話通訳に何が求められているのかを紹介します。入門編動画の詳細は以下のウェブサイトをご覧ください。

<構成> 約 16 分・情報保障あり(字幕・日本手話)

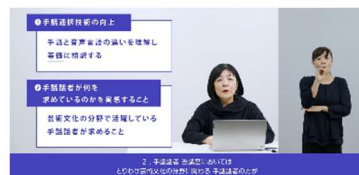
はじめに (講座の趣旨)

Chapter 1 ・言語としての手話

Chapter 2 ・手話通訳＝言語通訳/講座で学ぶ 2 つのこと

Chapter 3 ・芸術文化分野の手話通訳のために学ぶこと

Chapter 4 ・芸術文化分野の情報保障などの状況



<https://creativewell.rekibun.or.jp/>



Creative Well-being Tokyo

だれもが文化でつながるプロジェクト

本事業は東京文化戦略 2030 のプロジェクト「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」の一環として実施します。

「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」とは、芸術文化の力や都立文化施設の資源を活用し、高齢化や共生社会など、東京の社会課題解決への貢献を目指し、高齢者、障害者、外国人、乳幼児等を対象者に「アクセシビリティ向上」と「鑑賞・創作・発表機会の拡大」に取り組むプロジェクトです。本プロジェクトでは、都立文化施設の情報アクセシビリティ環境を整備し、障害や年齢等を問わずあらゆる人が文化芸術を鑑賞するとともに、参加・創造するためのプログラムを実施しています。